

アニメ王国の人の名前

高畠勲監督が「十二世紀のアニメーション」

(徳間書店)という画集の冒頭で、僕が以前

このコラムで書いたのと同じような話を書い

ていらっしゃる。アニメの大監督と同じ意見

で、とてもうれしい。日本でマンガやアニメ

がこれほど人気なのは日本語の特徴と関係し

ているという話である。日本語はどういう音

か、音的にどう響くかということだけじゃな

く、どのように書くか、視覚的にどう映るか

ということも大切な言語である。

高畠監督があげていらっしゃる例の中では、生まれた子供の名前を考えるとき、あるいは芸名や作家のペソネームを考えるとき、いろいろなことを考える。どういう意味の名前か、どんな音の響きか、さらにはどういう字をあてるか、などいろいろ考えていい名前をつけようとする(ちょっとポイントがずれるけど、「モーニング娘。」の「。」なんて、他の言語の話し手なら思いつかないんじゃないかな?)。「いつぺい」という音にはなんとか、コミカルな響きがある(と、ずっと思って生きてきましたが)。でも、「一平」と「逸兵」ではなんとなく雰囲気がちがう。

日本人はいつてみれば、

視覚的メッセージと聴覚

的(音)メッセージの両方が織りなすものを渠

しんでいるのである。そして、名前について言えば、何でもあり!だ。そ

ういえば、以前「悪魔」なんて名前をつけた親がいて話題になつたね。あの名前は確かにとりやめ

したと思うけど、日本の場合、法律上、使える漢字は決まっているものの、原則としてどんな名前でもOKだ。「逸兵」と書いて「はなし」と読ませたつてよい。実際ときどき変わった名前や読み方の人に出くわすことがあ

る。バラエティー豊かだ。

でもちよと待てよ。これはよく考えるとすこし不思議な話だ。よくアメリカやヨーロ

ッパの人たちは「個人」であることや「個性」を大事にすると言われたりする。人を呼ぶときも名字じゃなく名前(英語で言えばファーストネーム)で呼ぶ。ところが日本人は「集團」を大事にする、目立つことを嫌う、とい

うようなことを言われたりする。なのに、名前について言えば、アメリカやヨーロッパの人たちの名前はとても「個性」がない。「ジョン」とか「メアリー」みたいに決まつたものがばかりである。法律でつけてよい名前が決まっている国もある。彼らにとつては、名前

は考えるというより、選ぶものである。たぶん、欧米の人にとって名前は要するに呼び名なんだな。その人の名前を呼ぶことは大切だけど、意味 자체はそんなに大切じゃないんだと思う。もちろん、「メアリー」や「ジョン」だって聖母や聖人の名前だからそれなりに意味はあるんだけど、日本人の名前ほど意味はない。日本人の名前には音と文字と意味との複雑な響きあいがある。これは誇りにしていいことだと思う。

